

## 私のカルテ

No 4 5 7

津島市民病院  
脳神経内科医長たもと  
ゆか  
谷本由佳アルツハイマー病の新しい薬  
「抗アミロイドβ抗体薬」について

## はじめに

“認知症の進行を遅らせる「新しい薬」ができた”というニュースを聞いたことはありませんか。

認知症の原因の一つであるアルツハイマー病に対し、2023年12月に新しい治療薬が本邦で保険承認されました。この薬は「抗アミロイドβ抗体薬」と呼ばれ、2026年3月現在本邦で流通している薬剤はレカネマブとドナネマブの2種類です。

これまでアルツハイマー病の治療は、症状が進行してからその症状を緩和するという方法が主流でしたが、抗アミロイドβ抗体薬の登場によって、症状が軽いうちに進行を遅らせるという新しいアプローチが可能になりました。

## アルツハイマー病の仕組み

アルツハイマー病は認知症の原因の中で最も多い疾患であり、「同じ話を何度も繰り返す」「直前に覚えたことを忘れてしまう」などの記憶障害を中心に年単位で症状が進行していきます。

アルツハイマー病の患者さんの脳には「アミロイドβ」と呼ばれる異常なタンパク質がたまっており、しかもこのタンパク質が認知症の出現する何年も前から脳にたまり始めることが分かってきました。アミロイドβの蓄積を抑えれば認知症の進行も抑えられるのでは？という仮説のもとで開発されたのが、抗アミロイドβ抗体薬です。

## 「新しい薬」はどう効く？

抗アミロイドβ抗体薬は、脳にたまったアミロイドβのかたまりを取り除く作用があります。臨床試験において、レカネマブとドナネマブはいずれも、1年半の投与で認知症の進行を7.5カ月程度遅らせる効果があるとされています。

認知症の進行を止める効果や、治療を始める前の認知機能に戻す効果は証明されていません。あくまで認知症の進行を遅らせる薬であることには注意が必要です。

## 診断から治療までの流れ

ここでは、現在当院で採用されているレカネマブについてお話しします。

まずは、認知機能の低下がありレカネマブの投与を希望される方について、実際に投与できる条件に当てはまるかを調べます。様々な条件がありますが、特に大事なのは他の病気による認知機能低下がないこと、認知症の症状が軽いこと、過去に脳出血を起こしていないことです。これらの条件に当てはまった方は、画像検査または髄液検査を行い、アミロイドβが脳にたまっているかどうか調べます。アミロイドβがたまっていることが分かればレカネマブによる治療を開始します。この薬は点滴で投与します。初回は入院治療で、その後は2週間に1回の外来治療を行っていきます。この治療を行っている期間は定期的に頭部MRIの検査を受けて頂く必要があります。

副作用の中で最も多いのは注射部位の赤みや腫れですが、抗アミロイドβ抗体薬に特有の副作用として「アミロイド関連画像異常(ARIA)」があります。ARIAは多くの場合無症状ですが、時に頭痛や吐き気などを起こすことがあります。

## 認知症治療のこれから

抗アミロイドβ抗体薬によって、社会全体がどれほど大きな恩恵を受けることができるのかは今後の検証が待たれるところです。確かなのは、この薬の登場により、認知症の早期診断の意義が今まで以上に大きくなっていることです。

物忘れが気になる方は、ぜひお気軽に脳神経内科までご相談ください。

